

運輸省海運總局船舶局監修
造船海運綜合技術雜誌

船の科学

VOL.1 NO.1 NOV.1948

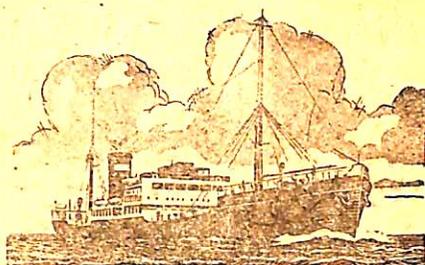


船舶技術協会



編集委員

井口常雄	朝永研一郎	横山 涉
和辻春樹	村田義鑑	渡邊 惠弘
古武彌輔	加藤 弘	原田 秀雄
大瀬 進		
編集幹事		
田宮 眞	船橋 敬三	藤波 哲太
前田文雄	朝永 信雄	田中 幸正



「船の科学」編集の抱負

「船の科学」創刊號を世に送るに當つて、編集の抱負の一端を披瀝して、此の新しい技術雑誌の意義と使命を一層明確にし一般の御了解を得たいと思ひます。

本誌は凡そ「船」に親しみをもち、「船」を造るために勤み、「船」を我家として海洋を闊歩する人々にとつて、直接御役に立つことを何よりも念願してゐます。そして「船」と云ふ大きな目標に向つて皆が懸命に努力して欲しいのです。

「船」を造る人は、之を扱ふ乗組の人々の氣持を考へて細心の注意を以て最善を盡すべきでせうし、「船」を動かす人は、その能力を最高に發揮して、機械に對するいたわりの心で「船」を愛すべきでせう。此の様な考へから、「船」に關係する人は凡ゆる智識を涵養して、之を實地に即應させることが必要です。本誌の編集方針も此の廣汎な部門に互つての智識や技術を一般に廣め、造船と海運と云ふ一つの大きな世界が造船家と海運家相互の理解と助け合ひとに依つて、眞に一體となり日進月歩することを期待するものであります。從來の技術雑誌の獨善を除き、狭過ぎる専門的内容を

避け、多忙な日常を過して居られる方々が、僅かの餘暇に氣樂に讀まれ、しかも血となり肉となると云ふのが我々の望みです。

自分の役目を限定して、其の中にもみ後生大事にとちこもつてゐる方々が多い様な氣が致します。少くとも「船」に關係する人は凡ゆる分野で「船」に關する直接間接の智識を必要とします。「船」はそれ程廣い間口を持ち、「船」に關係する人はそれ程博識でなければなりません。「廣く淺く」それで十分とは思ひませんが先づ之をものにしてそれから先に進むべきであらうと思ひます。本誌の目標も先づそこにあるといへませう。

「船の科学」の内容は次の様に分類してあります。

- ◇造船學(抵抗・推進・強度・振動・構造・復原性・動搖・運動論) ◇設計 ◇工作 ◇材料及資材 ◇進水 ◇機裝 ◇修理 ◇熔接及切斷 ◇船用機關 ◇船用電氣及計器 ◇救難 ◇工場組織 ◇漁船及木船 ◇特殊船 ◇船舶史 ◇船舶法規及經理 ◇海運(海運一般・港灣・海洋) ◇造船所だより ◇現場の聲 ◇海外=ニュース及資料 ◇國內=ニュース及資料 ◇海運總局船舶局欄

目

「船の科学」編集の抱負	1
「船の科学」創刊を祝ふ(大瀬 進)	2
造船技術の正道化(朝永研一郎)	2
船舶修繕管理の現状(中西 久)	3
錨の鋭き爪(立川春重)	5
船の轉覆と波(越智和夫)	7
船の機裝(三田一也)	9
造船用鋼材(菊池清介)	11
沿岸航路貨物船の設計について(山縣 彰・赤津誠章)	14
船を造る者の立場から(木田富藏)	18
陸海空各輸送機關の優劣について(米原令敏)	19
造船所便り(播磨造船所・三菱横濱造船所)	22

次

鯨鮪漁船の一轉換(高木 淳)	23
米國に於ける熔接船の損傷と其の對策(川島榮一)	25
船舶電氣設備の將來(三枝守英)	27
鐵道連絡船摩周丸	29
國內=ニュース	31
海外=ニュース	33
海外資料	36
戦後新造船一覽表(其一)	38
「メーカー」一覽表(其一)	39
船舶資材	40
表紙寫眞は飯野産業舞鶴造船所のドック	